

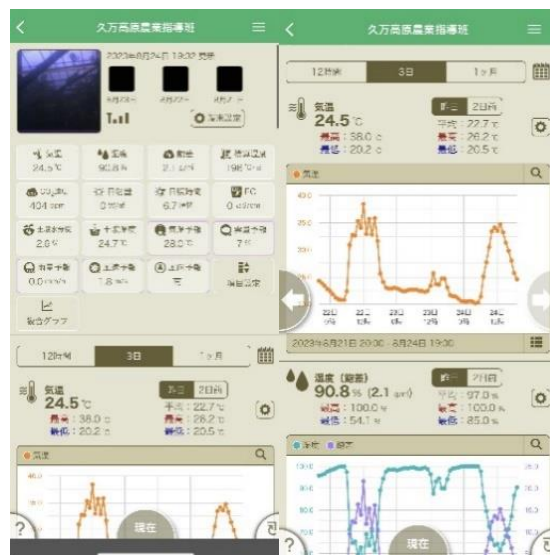
クラウドセンシングを活用した雨よけトマトの栽培管理 (久万高原農業指導班)

夏秋トマト栽培においては、施設内の温度管理や土壌水分管理を適切に行うことが重要ですが、収穫が始まると、きめ細かい管理が難しくなってきます。そこで、当班では、実証ほ場の施設内にクラウドセンシングを利用した環境モニタリング装置（商品名：みどりクラウド）を設置しました。

この装置により施設内の温度、湿度、CO₂濃度等の環境データがクラウド上で蓄積され、タブレットやスマホでいつでも確認、分析することができます。このように「見える化」した環境データをもとに、より最適な栽培管理方法を検討していきます。



圃場に設置した環境モニタリング装置

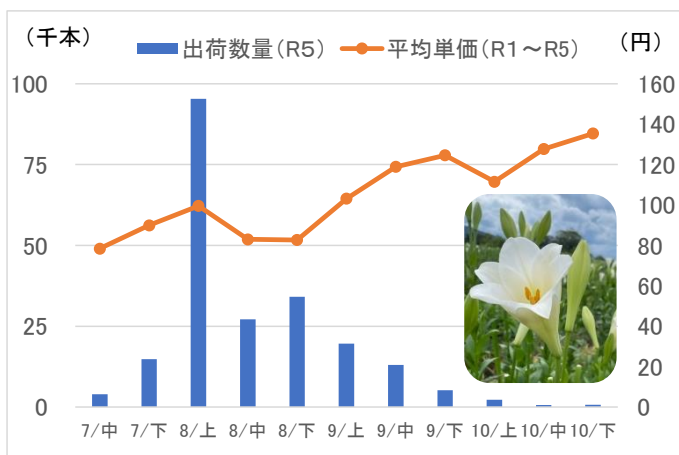


スマホの画面でデータを確認

シンテッポウユリの安定生産を目指して（産地戦略推進室）

お盆やお彼岸にお供えする花として人気が高いシンテッポウユリは、東温市や松前町で栽培されており、全国有数の産地となっています。彼岸前（9月）の需要期には、高単価で取引されますが、定植後の高温等により栽培が難しく、安定生産技術の確立が求められています。

そこで、産地戦略推進室では JA 松山市と連携し、今年度から彼岸出荷に適する品種の選定や苗冷蔵処理による適期出荷技術の実証に取り組んでいます。また、久万高原農業指導班では、高冷地における栽培適応性を検証するため、定植時期及び品種について試験栽培を行いました。今後も JA と連携して調査するなど、彼岸時期の安定生産技術の確立を目指します。



期間別出荷数量と平均単価



苗冷蔵処理による実証
(○ 実証区：彼岸までに収穫が終了)

農事功績表彰「緑白綬有功章」を受章 ～松山市 野本貢さん～

松山市吉藤の柑橘専作農家 野本貢さん(72歳)が、令和5年度の農事功績表彰者に決定し、11月15日に東京都内にて秋篠宮殿下下御臨席のもと行われた表彰式で、緑白綬有功章を受章しました。

この表彰は、公益財団法人「大日本農会」により農業改良や地域農業の発展に貢献した農事功労者に対して行われる歴史あるもので、107回目となる今年度は全国で63名の方が表彰されました。

野本さんは長年にわたり、宮内伊予柑の高品質・安定生産技術の実践により産地発展に寄与した他、「せとか」「不知火」「紅まどんな」等の優良中晩柑の導入や地域での普及推進、多彩な農業研修生受入れ等による次世代の担い手育成などに大きく貢献したことが高く評価され、今回の受章となりました。



表彰式での野本貢さんご夫妻



優良中晩柑の産地化に貢献

多様な人材を活用した労働力確保対策 ～求人アプリで雇用の確保～

農業従事者の減少と高齢化が進む一方で、担い手においては農地集積による規模拡大で、農繁期の労働力不足が顕著となっています。

そうした中、(株)KIRIが運営するアルバイト人材のマッチングアプリ「AIagri.」はR5年度のリピート率が90%超と良好であることから、地域農業育成室は必要に応じ労働力確保に悩む農家に紹介するなど、労働力確保手法の普及やJA・行政・民間の人材紹介会社等との関係機関連携強化に努めています。

このほか、民間による人材マッチングとして、松山市興居島地区では、Kamakura Industries株式会社の運営する「daywork」の運用が開始されたほか、(株)VOCEが主催する有償ボランティアというスタイルで求人できる「愛媛お手伝いプロジェクト」が松山管内で広がりつつあります。当室は、引き続き被雇用者の要望に応じながら、労働力を安定して確保できる環境を整えることで、持続的な農業経営の実践を後押ししていきます。



作業中のアルバイト



「愛媛お手伝いプロジェクト」の取組みを関係機関に紹介